

(事後評価)

挑戦的若手研究者の自立支援人事制度改革

(実施期間：平成 19～23 年度)

実施機関：熊本大学（総括責任者：谷口 功）

プロジェクトの概要

挑戦的かつ独創的な研究発想を得た若手研究者が、その発想を展開するべく自由に研究を行える環境を用意する。実績のみならず研究提案を評価して初年度 10 人、3 年目 10 人の合計 20 人を採用し、競争的環境下で資金・人員・スペースなどの重点的配分の下で養成し、中間評価において研究の継続または中止を決定し、准教授相当のテニュア（8 人）へのキャリアアップ審査を実施する。テニュア就任後も資源配分や給与に本人のインセンティブが働くシステムでフォローアップし、5～10 年以内の教授レベルの人材輩出を目指す。本取組みを実施することで、教員全体に意識改革がなされ、全学的に研究・教育・診療等多様なキャリアパスに応じた TT 制度を設計することが可能となる。

(1) 評価結果

| 総合評価 | 目標達成度 | 国際公募・選考・業績評価 | 人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績) | 人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント) | 実施期間終了後における取組 | 中間評価の反映 |
|------|-------|--------------|---------------------------------|--------------------------------|---------------|---------|
| A | a | a | a | a | a | a |

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

中間評価結果を真摯に受け止めた自主努力によって、準備するテニュアポストを増加することによって選抜型から育成型へとテニュアトラック制（以下「TT 制」という。）の考え方を転換し、テニュアトラック若手研究者（以下「TT 若手」という。）の自立性への十分な配慮を行ったことは評価できる。今後の部局主体の TT 制定着において「大学院先導機構」との連携をより具体化することを期待する。

- ・**目標達成度**：本プロジェクト実施当初に採用した TT 若手に対して十分なテニュアポストを準備しなかったものの、厳正なテニュア審査に基づきテニュア資格付与の可否を判断し、「大学院先導機構」を活用して TT 若手を部局に配属する仕組みを確立したことは評価できる。
- ・**国際公募・選考・業績評価**：分野毎に三段階の選考プロセスを経て、外国籍研究者や女性研究者を含む多くの TT 若手を適切に採用したことは評価できる。しかし、2 年度目の公募分野も同一であったこと及びテニュア審査基準の開示からテニュア審査の開始まで

が1年間であったことの効果を十分に分析し、今後のTT制継続・定着に資することを期待する。

- **制度設計に基づく実施内容・実績**：テニユア審査に合格したTT若手を最長5年間「大学院先導機構」に所属させ、早期に配置替えした部局にインセンティブを与えることによって、拠点型のTT若手育成と部局型TT制の並立を実現したことは評価できる。今後は、TT若手の教育意欲を向上させるためにも、できる限り早い時期に、テニユア職に採用したTT若手を「大学院先導機構」から部局に配置換えすることを期待する。
- **制度設計に対するマネジメント**：中期計画において優れた若手研究者を育成するためTT制を活用することを明記し、テニユアポストの確保、運用組織の改善、教育への関与、セーフティネットの構築、メンターの役割の修正などの施策立案においてPDCAサイクルを活用したことは評価できる。
- **実施期間終了後における取組**：「大学院先導機構」の機能を維持しつつ本プロジェクト実施による課題を明らかにし、部局が主体的に運営するTT制の普及・定着を図っていることは評価できる。今後は、人文・社会科学分野へのTT制導入・定着を期待する。
- **中間評価の反映**：中間評価結果において指摘されたテニユアポストの準備については、プロジェクト実施期間終了後に育成中のTT若手全員分を用意することとし、学長裁量ポストを活用して「大学院先導機構」に一定期間配属し、部局のテニユアポストへの配置換えを促す施策を実施することによって対応し、中間評価は概ね反映されている。